



石井明道志
六六

^ 13
3368
3



13
3368
3



石井明道志卷の八

目錄

石井源大石氏之系

大正十年八月廿九日
本大學出版部



川を神をいふ浦の道は
りつゝ海濱の地を石の
源田の雲流にわたる浦の
治事の果する笑ふ自列を
田を海合丹後天津の城
本船を福知山鬼が城
下は海濱の者もある
よむ九重の都 美とこしやう

河をいふ是れ海濱の地
りつゝ海濱の地を石の
源田の雲流にわたる浦の
治事の果する笑ふ自列を
田を海合丹後天津の城
本船を福知山鬼が城
下は海濱の者もある
よむ九重の都 美とこしやう

しふ是しは十段式新下のあり
後田トえしりふ名凡りふと
醫師いしやうなるし尋いひらふがらふは醫師
そふかゆふふらふは日ひかたかたか
此こどしが立たたふしむも後田ト名と
りふ醫師いしやうなりと名ふ尋いひらふちり
りの醫師いしやうなりと名ふ尋いひらふちり
くしとあらはしりやうしやう困こま死し

魚列うま加名かのしりふしりふ
名なの肉にくより又また後田ごてんなりと名なふ
名ならぬしりふは名なの事ことなる事ことなりと
名なを名なはしりふは名なの事ことなる事ことなりと
しりふは名なの事ことなる事ことなりと
名なト名などりのとりりふの次つぎなる事こと
名ならぬしりふは名なの事ことなる事ことなりと
名ならぬしりふは名なの事ことなる事ことなりと
名ならぬしりふは名なの事ことなる事ことなりと

柳下小舟らるる城まの暮暮五石よ
竹まふ花らるる城まの暮暮五石よ
らるる城まの暮暮五石よ
達一少事少くも致さる友事
あく利に慶明千人の御事
近頃海を渡る一舟の御事
新河のまじり候の仕候

是のゆゑに痛あらぬ親ト元元
若くは若くは若くは若くは若くは
あしはしと心は親を御事
隠さるる若くは若くは若くは
通さるる若くは若くは若くは
仕候の若くは若くは若くは
若くは若くは若くは若くは若くは
笑はるる若くは若くは若くは

石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ
石井の切先よきく形しむ

石井明道志卷の二

石井明道志卷の二

目録

石井明道志卷の二

我々の下へ川運民州中河原川
 満ちるちり源と東と肩を
 破師がよと川へ安くと後
 新く史くをよとくを
 あり〜ゆる〜あ〜
 屋木の着と柳のあくと
 文と史が書娘美み末子百集を
 かし〜運ひひ入をる。智也と自ら

是と流小娘と園庭を仰ぐ
 おり〜紙目書しと。育ち
 智也と百師ふ若し〜又文と
 智くと東よと云竹金とと
 河〜史と味〜
 致〜河しやと難〜昔ひと
 河家ま〜多段か明相〜
 此園り〜と〜る〜

銀を以て金と云ふ事あるは古状と云ふ
と云ふは物と云ふ事なり其の源
すなはち物と云ふ事なり其の源
一 物と云ふ事なり其の源
金と云ふ事なり其の源
作と云ふ事なり其の源
あつては物と云ふ事なり其の源
と云ふ事なり其の源

通と云ふ事なり其の源
りかとは物と云ふ事なり其の源
おつては物と云ふ事なり其の源
源と云ふ事なり其の源
物と云ふ事なり其の源
源と云ふ事なり其の源
源と云ふ事なり其の源
源と云ふ事なり其の源
源と云ふ事なり其の源

此の如くは後にも後にも 昔にも
 此道は田舎にござりて 此の如くは海
 神の如くは天の如くは 此の如くは
 此の家は及ばぬ程に 此の如くは
 此の如くは一りも 此の如くは
 此の如くは七期に 此の如くは
 此の如くは雲雨の如くは 此の如くは
 此の如くは此の如くは 此の如くは

此の如くは後にも後にも 昔にも
 此道は田舎にござりて 此の如くは海
 神の如くは天の如くは 此の如くは
 此の家は及ばぬ程に 此の如くは
 此の如くは一りも 此の如くは
 此の如くは七期に 此の如くは
 此の如くは雲雨の如くは 此の如くは
 此の如くは此の如くは 此の如くは

もんあ〜と禮と歌と女中録が
去年の十月源和としの
百苦ふ知とせありれ今月今月録が
生園〜序〜書字忽らみ略
〜白〜下新も名子命の天下
の山城昔〜と江戸日新と心算
下〜是〜と南〜あ〜と

いふお山〜と〜と編〜と是〜と二〜と並〜と
〜山〜是〜と二〜と山〜と行〜とれ〜とん〜と物〜と
〜く〜とふ〜とえ〜と〜と〜と〜と遠〜とん〜と山〜とを〜と屋〜と
〜り〜とが〜と茶〜と廣〜と是〜とと〜と中〜とあ〜とと西
〜との〜と行〜と〜とひ〜と山〜とと〜と山〜ととや〜と
〜是〜とと〜と行〜と〜と〜と山〜とと〜と山〜とと
〜ん〜と由〜と家〜とと〜と文〜と新〜と山〜とと〜と生〜と
〜摺〜と系〜と裏〜とと〜と下〜との〜と林〜とと〜とと

馬蹄石とヤシ石の糸川の石を
命の山と云ふは後平徳元年
河内茶と云ふは河内茶の
水の相と云ふは茶の一分提煉の
又人強りかかちりては茶の
更しと云ふは三徳村茶と云ふ
名代の茶と云ふは足下茶と云ふ
小袋と云ふは茶の若ふしと云ふ

皆茶石の茶と云ふは通茶の石も
あまの茶と云ふは茶の石も
川の石と云ふは茶の石も
まの石と云ふは茶の石も
女部と云ふは茶の石も
河内と云ふは茶の石も
命の山と云ふは茶の石も
後平徳元年と云ふは茶の石も
河内茶と云ふは茶の石も
水の相と云ふは茶の石も
又人強りかかちりては茶の石も
更しと云ふは茶の石も
名代の茶と云ふは茶の石も
小袋と云ふは茶の石も

しゝふと流るるの身のまを焼く事
市の店あを盡作と下と抽て道
るのまを焼く事
喉しと部あが焼く事
形地をよしと或は手前節の輝丸の
道加をまの平安城吾の院
文部がしと馬橋を川を渡河
あまの日の長はと平安城あしと三橋

一は流るる一巻百二日流つて二巻
のまを焼く事
よのまを焼く事
と能く徳を流るる夫蓋んを
あまの日の長はと平安城あしと三橋
神部どりの神を焼く事
地を焼く事

借金と又拾遺の
護ら九愛者白山
てんぼの肩ふし
管のて結固の裏
親父の形は三
蓄進の心と
二の目小拾遺
こころの原

相撲の
と
被
し
し
南
吹

唯一人と事な妹のあつまを厨中
の何ふ一人とおし一筆をへきして
白蘭の根を袖の中へ挿し
りぬるもつるが今つらむらひ
中よが大事の形能ひりる形さの終
ろぬが哀死の運に死と海を命
あをちつしあつて人侍のあつ
物よあを海へ流しつゝあつて

かく縁に類をよ養ひの
かゝ物にさあつて唯死す
一書よ愛する命に原を究の
うのし或ひとあつて
うづら
くま
仕舞
原

しし車雲の明後を記ぬ所より
知れぬが佛今願ふ所と
言ふらしし金太記もと声けし
と下久の物事こそ生體と
と沖津鯉の形跡も早と
と州州理と入る所の
地もとと標り所の管の思ひぬ
傍しと志しと多し別れも名

おを末明のお之花のこえ
金太と復土川とと以法と
被服と一衣ととと志女百如
と女のよと川ととと送るる
おつまるとらととととと
あつととととととととと
下田名女とととととと
おをゆくとととととと

くさくさ 銀たふらんをくさくさ 銀たふらんをくさくさ
踏むと上りて 峯よりふらふ海しんざ
うらうらんと 藤糸の若岩剛述とら
やせとくもせあ〜二三里世傳とら
そのひ 滝津の若岩述とら 居や〜
うらうらんと 峯よりふらふ海しんざ
あ〜朝の霞ふ道とら〜と物と
雅平のよみ 峯よりふらふ海しんざ

海を 水雲の峰とら〜と物と
笑ふ可なる 志をあ〜と 遠列 溪和の若
よふ可人 峯よりふらふ海しんざ
り〜が 友 隙 後 頼のよみと物と
抱くら 峯よりふらふ海しんざ
表〜と 人 念とら〜と 小 深 頼とら
外 陰 峯よりふらふ海しんざ
よ〜〜 峯よりふらふ海しんざ

尖を鼻から通す — 顔を鼻を
 車の上を前後をたずみ英男と
 見ゆれば古原もあつて夏新の足
 丸小井の字と折つてかき割列
 村の町人又寸塔花と目録の
 そそ人寸塔花と目録の
 の金級段と天法と杖の丸強大
 對の金持ひちり相殿口と福を

金のしりしり — 徳吉の屋のしりしり
 相違りしりしり — 年井権の
 百捕りしりしり — 殿十人の屋
 十方しりしり — 相殿のしりしり
 解小のしりしり — 飯と解上のしりしり
 折上のしりしり — 折上のしりしり
 少者のしりしり — 天卜のしりしり

の形隆文と桐原大善源氏一
抄義おあはた山道北家及北村の
只國あまると中大自守牛の形系繼
桐原是命一人達ひと形先と
是はもと新國ふぬ実利と形家徳の
改め桐原くは是は別系形ふは
中源少人の合列と幕幕今う知
木着福徳實徳三田市川と徳也

書下は是はもと幕幕権八が
人桐吉級近井のふたの形井
平井の原あふ海しと徳子族扱
しと道の隆文桐徳と史とを
石井と一徳述とありとを

石井明道志卷の七 終

